

6. お車との上手な つきあいかた

● お手入れ

外装のお手入れ	6-2
内装のお手入れ	6-3
タイヤの交換	6-4
リモコンキーの電池交換	6-6

● 寒冷時の取扱い

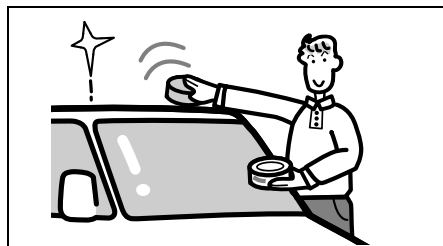
冬期に入る前の準備	6-9
出発の前に	6-10
雪道を走行するとき	6-11
駐車するとき	6-12
タイヤチェーンを装着するとき	6-14

外装のお手入れ

塗装面を美しく保つために

お車をいつまでも美しく保つためには、日頃のお手入れが大切です。

- 駐車、車の保管は風通しのよい車庫や屋根のある場所をおすすめします。
- 次のようなときはサビや塗装の変色などの原因となります。すみやかに洗車をしてください。
 - 海岸地帯や凍結防止剤を散布した道を走行したとき。とくに車体の下まわり、足まわりを洗車してください。
 - 鳥のふん、虫の死がい、樹液、鉄粉、ばい煙、コールタールなどが付着したり、酸性雨に濡れたりしたとき。
 - ほこりや泥でひどく汚れたとき。
- ワックスがけは月に 1 回程度、または水のはじきが悪くなったら行なってください。ワックスがけのしかたは、ワックス（別売り）の容器に書かれている取扱説明に従ってください。



80J302

- 飛び石の傷や、引っかき傷などはサビの原因となります。見つけたら早めに補修してください。

注 記

塗装面の傷を補修するときは、日産販売会社にご相談ください。不適切な塗料を使用すると、塗装がはがれる原因となります。

洗車のときのご注意

⚠ 注意

- 車体の下まわりや足まわりを洗うときは、けがをしないように気をつけてください。
- 洗車したあとはブレーキの効きが悪くなることがあります。
→ 2-15ページ（水たまりを走行したあとや洗車後はブレーキの効きを確認）

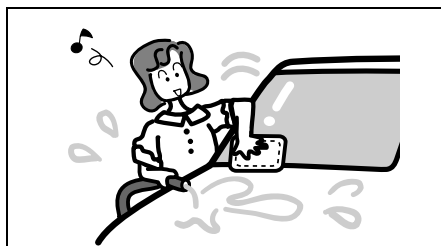
注 記

エンジンルームに水などをかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品が故障する原因となります。

手洗い洗車をするとき

- 1 十分に水をかけながら、スポンジやセーム皮のような柔らかいものを使って汚れを洗い落とします。
- 2 汚れがひどいところは中性洗剤を使って洗い、さらに真水で洗って洗剤を落とします。

- 3 柔らかい布で水をよくふき取り、水滴のあとが残らないようにします。



80J303

自動洗車機を使うときは

注 記

- ドアミラーを格納し、アンテナを取り外してください。洗車機に引っかかり、ドアミラーやアンテナを損傷するおそれがあります。
- 自動洗車機によっては、ブラシで傷がついて塗装面の光沢が失われたり、塗装の劣化が早まったりすることがあります。

高圧洗浄機を使うときは

洗車ノズルを車体から十分に離してください。

注 記

- 洗車ノズルを車体に近づけすぎたり、バンパーなどの開口部に向けたりすると、車体や部品の変形や損傷の原因となります。
- 洗車ノズルをドアガラスやドアまわりなどの開閉部分に向けると、車内に水が入るおそれがあります。

フロントウインドーガラスの手入れ

油膜などが付着してワイパーのふき残しが出たときは、ガラスクリーナー（別売り）で汚れを取ってください。

アルミホイール（タイプ別装備）の手入れ

6-2 ページの「手洗い洗車をするときは」をお読みください。

注 記

- 酸性、アルカリ性の洗剤を使用しないでください。塗装のしみ、変色、ひび割れの原因となります。
- 硬いブラシや砂入り石けんを使用しないでください。傷つきの原因となります。

内装のお手入れ

- 砂、ほこりなどは掃除機などで吸い取るか、水またはぬるま湯を固くしぼった柔らかい布でふき取ってください。そのまま放置すると、傷つきの原因となります。
- 液体芳香剤やジュースなど液体類が付着したときは、すみやかにティッシュペーパーや柔らかい布でふき取ってください。こぼしたままにしておくと、しみ、変色、ひび割れの原因となります。

⚠ 警告

車内に水などをかけないでください。
オーディオ（タイプ別装備）やスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などにかかると、火災や故障につながったり、SRS エアバッグシステムが正常に作動しなくなったりするおそれがあります。

注 記

- 次のような成分が含まれているケミカル用品は使用しないでください。
しみ、変色、変形、強度低下などの原因となります。
 - ベンジン、ガソリン、シンナー、ステッカーはがし剤などの溶剤
 - 酸性、アルカリ性の洗剤
 - 漂白剤や染料
- 色物の革製品・毛皮・ビニールなどを長時間、放置しないでください。
内装の変色や変質の原因となります。

🔧 アドバイス

液体芳香剤はこぼさないように容器を固定するか、固形タイプのもののご使用をおすすめします。

布地、ビニールレザー、樹脂部品などの手入れ

1 中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませ、汚れをふき取ります。

2 真水を含ませた柔らかい布で、残った洗剤分をふき取ります。

3 残った水分をふき取り、風通しの良い日陰で乾燥させます。

バックドアガラスの室内側の手入れ

熱線や端子を傷つけないように、水を含ませた柔らかい布で熱線に沿ってふいてください。

タイヤの交換

タイヤ空気圧警告システム装備車の場合、次の作業のあとにタイヤ空気圧警告システムの初期設定を行なってください。

- タイヤ空気圧の調節後
- タイヤまたはホイールの交換後
- タイヤのローテーション後
- メーター内のタイヤ空気圧警告灯が点灯したとき

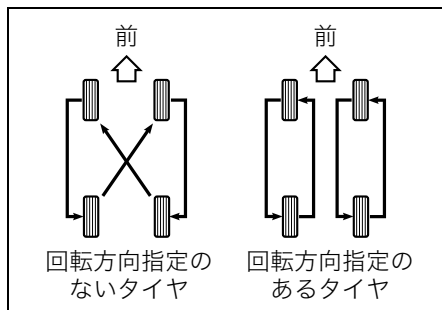
→ 4-27ページ

(タイヤ空気圧警告システム)

タイヤのローテーション

タイヤのかたよった摩耗を防止して寿命をのばすために、約 5,000km 走行ごとに行なってください。（次の図参照）

- タイヤローテーションを行なうときは日産販売会社にご相談ください。



80J305

⚠ 注意

回転方向指定のあるタイヤをローテーションするときは、回転方向を逆にしないでください。走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

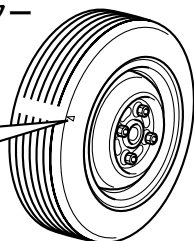
🔧 アドバイス

回転方向指定のあるタイヤは、タイヤの側面に回転方向を示すマークがあります。

タイヤ交換するときは

- 指定タイヤのサイズと空気圧は、お車のタイプにより異なります。運転席ドアの開口部に貼付してある「空気圧ラベル」で確認してください。
- 走行中にハンドルや車体に振動が出る場合は、タイヤのバランスを点検してください。
- 取り付ける前にタイヤの摩耗状態を点検してください。ウェアインジケーター（溝の深さが1.6mm浅い部分）が現れて溝の一部が消えていたら、他のタイヤと交換してください。

ウェアインジケーター （摩耗限度表示）



82K135

⚠ 警告

指定のサイズで、4輪ともサイズ、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一のタイヤを装着してください。また、摩耗状態が著しく異なるタイヤを使用しないでください。燃費や走行安定性が悪化するだけでなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、故障の原因となります。（冬用タイヤも同様です）

- ABS やタイヤ空気圧警告システム（タイプ別装備）の場合、正確なタイヤ回転速度が検出できなくなって、正常に作動しない場合があります。
- 4WD車では、その性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえるおそれがあります。

リモコンキーの電池交換

⚠ 警告

電池および取り外した部品は、お子さまが誤って飲み込まないように注意してください。

注 記

故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- 濡れた手で電池交換しない
- 電池以外の端子や電子部品に触れない
- 端子を曲げない
- 油や異物を付着させない

🔧 アドバイス

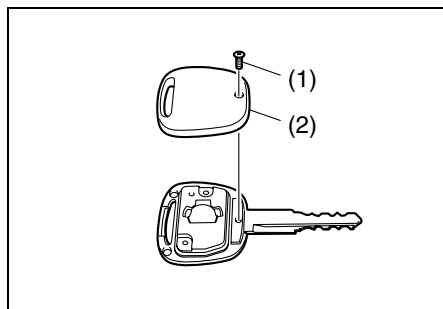
- 電池交換の際、リモコンキーを破損するおそれがありますので、日産販売会社での交換（有料）をおすすめします。
- 電池は、日産販売会社や家電量販店・ホームセンターなどでご購入ください。

プッシュエンジンスターター 非装備車

使用電池

リチウム電池CR1216

- 1 キーカバー（2）を外します。
 - スクリュー（1）は、サイズの合ったプラスドライバー（市販品）で外します。

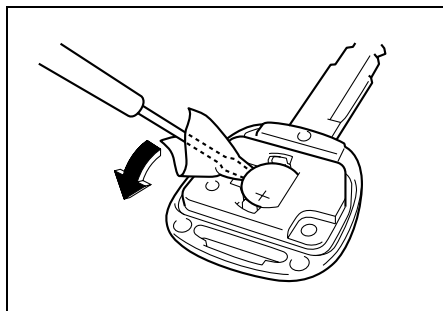


64L60010

注 記

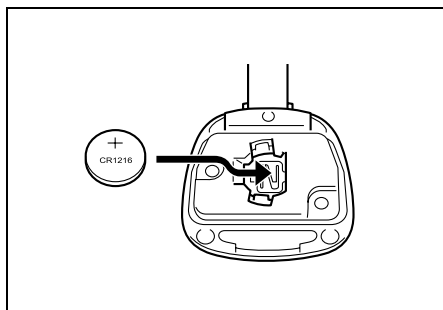
スクリューのサイズ・形状に合わないドライバーを使用すると、スクリューの頭がつぶれるおそれがあります。

- 2 電池を交換します。
 - 古い電池を取り出します。傷つき防止のため、布などをかぶせたマイナスドライバー（市販品）を使用します。



70K60010

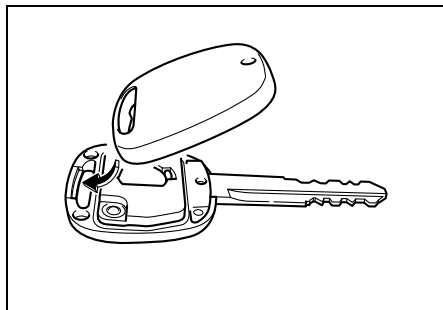
- 電池は、+極を上にして取り付けます。



64L60030

3 キーカバーを組み付けます。

- 図のようにカバーの先端を合わせてから取り付けます。



64L60040

- スクリューを確実に締め付けます。

4 リモコンキーが正常に作動するか確認します。

プッシュエンジンスターター 装備車

使用電池

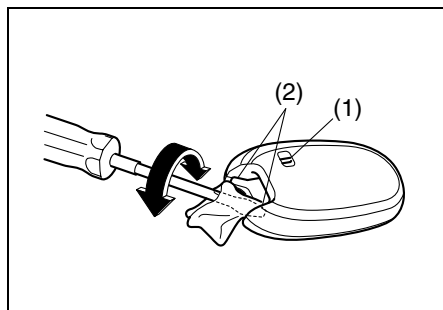
リチウム電池CR2032

1 リモコンキー（携帯リモコン）からキーを取り出します。

→ **3-2ページ（キー）**

2 携帯リモコンのケースを分割します。

- ケースは、ロック解除レバー（1）側を上にしします。（内部ユニットの落下防止のため）
- 傷つき防止のため、マイナスドライバー（市販品）に布などをかぶせます。キー格納穴の両側にある溝（2）へ差し込み、ケースを分割します。



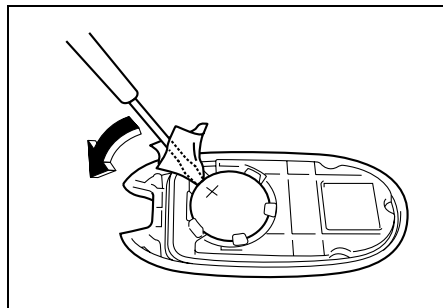
70K60020

注 記

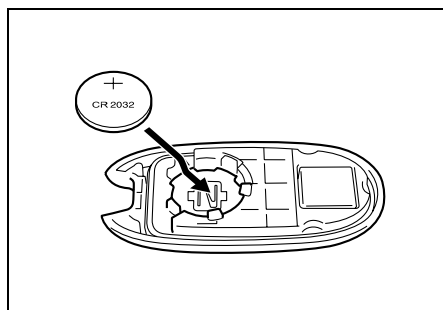
- ケースを分割するときは、ロック解除レバー（1）側を下にしないでください。内部ユニットが落下して破損するおそれがあります。
- ドライバーで、内部ユニットを破損しないよう注意してください。

3 電池を交換します。

- 古い電池を取り出します。傷つき防止のため、布などをかぶせたマイナスドライバー（市販品）を使用します。

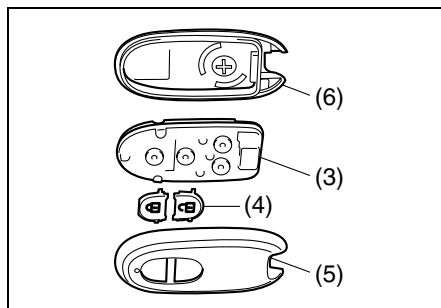


- 電池は、+極を上にして取り付けます。



4 ケースを組み付けます。

- ケースの合わせ部分のすきまが均等になるように確実ににはめ込みます。
- 万一部品がばらけてしまった場合は、次の図を参考に組み付けてください。



- (3) 内部ユニット (4) スイッチ
(5) アッパーケース (6) ロアケース

5 キーを格納します。

6 携帯リモコンが正常に作動するか確認します。

■ 携帯リモコン電池消耗警告灯のリセットのしかた

電池交換前に携帯リモコン電池消耗警告灯が点灯していた場合は、電池交換後に次の操作を行なって警告灯をリセットしてください。

- リモートコントロールエントリーシステムによるドアの施錠・解錠を2回以上繰り返す

それでも消灯しない場合は、所有している予備のリモコンの電池消耗が考えられます。予備のリモコンも電池交換し、前記の操作を行なってリセットしてください。

→ 3-9 ページ (リモートコントロールエントリーシステム)

→ 3-13 ページ

(携帯リモコン電池消耗警告灯)

冬期に入る前の準備

ウィンドーウォッシャー液

凍結を防ぐため、外気温に応じた割合で配合してください。

〈日産純正ウォッシャー液の場合〉

使用地域・季節	薄める割合	凍結温度
通 常	原液1に水3	約-7℃
温暖地の冬期	原液1に水2	約-10℃
寒冷地の冬期	原液1に水1	約-20℃
極寒冷地の冬期	原液のまま	約-50℃

バッテリー

バッテリーの液量や比重を点検してください。寒くなるとバッテリーの性能が下がり、弱っているバッテリーではエンジンがかかりにくくなります。

→ 2-3ページ

(バッテリーの液面を点検する)

冷却水

エンジン内部の腐食および凍結防止のため、指定の冷却水をお使いください。

→ 8-1ページ (サービスデータ)

→ メンテナンスノート (日常点検)

⚠️ アドバイス

冷却水の濃度点検および交換は、日産販売会社へお申し付けください。

スノーブレード (別売り)

スノーブレード (降雪地用ワイパーブレード) は、金属部分をゴムでおおって雪の付着を少なくするものです。標準装備のワイパーブレードでは、降雪時に雪が付着し、ふき取りにくくなる場合がありますので、必要に応じて交換してください。

⚠️ 注意

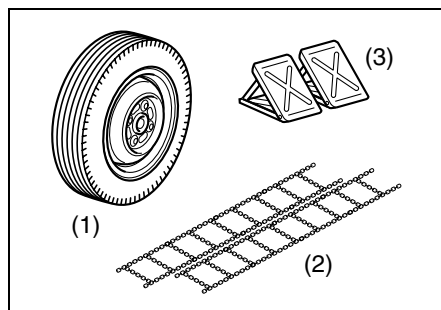
高速走行時は、通常のワイパーブレードよりふき取りにくくなる場合があります。その場合には、車のスピードを落としてください。

⚠️ アドバイス

雪の降らない時季は、通常のワイパーブレードのご使用をおすすめします。

冬用タイヤ、タイヤチェーン、輪止め

雪道や凍結路を走行するために必要です。



82K139

(1) 冬用タイヤ

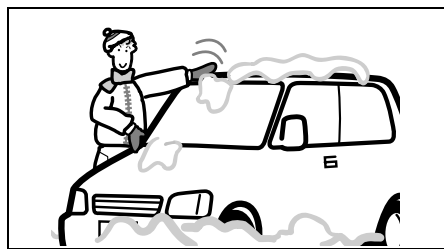
(2) タイヤチェーン

(3) 輪止め

出発の前に

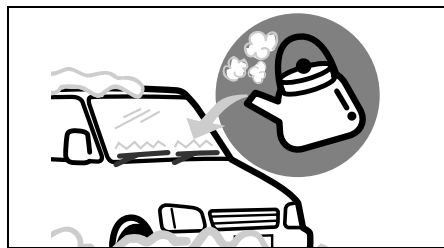
屋根に積もった雪

出発の前に取り除いてください。走行時に落下して、視界をさまたげるおそれがあります。



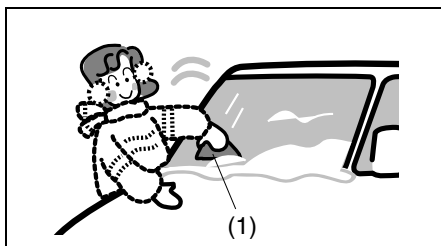
ワイパーの凍結

ぬるま湯をかけて氷を溶かします。溶かしたあとは、再び凍結しないように水分をふき取ってください。凍結したまま無理にワイパーを作動させると、ブレード部(ゴムの部分)が傷ついたり、ワイパーが故障したりするおそれがあります。



ガラス面の雪や霜

プラスチックの板(1)を使うと、ガラスを傷つけずに落とせます。



ドアの凍結

ぬるま湯をドアキーの穴を避けてかけます。ドアが開いたあとは水分をふき取ってください。凍結したまま無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、破損したりするおそれがあります。



靴に付着した雪

乗車するときによく落としてください。
そのまま乗車すると、ペダル操作時に滑ったり、車内の湿気が多くなってガラスがくもりやすくなったりします。



80J312

雪道を走行するとき

雪道や凍結路はゆっくり走行

⚠ 注意

スピードを控えめにし、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキなど「急」のつく運転はしないでください。雪道や凍結路は路面が滑りやすく、スリップ事故を起こすおそれがあります。



80J039

6

ブレーキの効き具合を確認

ブレーキ装置に付着した雪や氷が凍結して、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。

- 周囲の安全を確かめてから低速でブレーキペダルを数回踏み、ブレーキの効きを確かめてください。
- ブレーキの効きが悪いときは、効きが回復するまで低速で繰り返しブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキ装置のしめりを乾かしてください。

冬用タイヤ、タイヤチェーンを装着

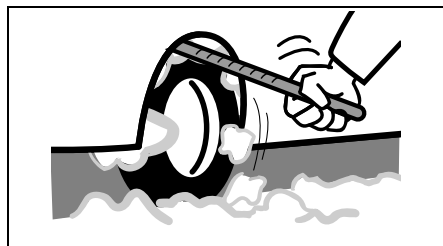
雪道や凍結路では、冬用タイヤまたはタイヤチェーンを装着してください。

- 走行する地区の条例などにしたがって装着してください。
 - 6-5ページ(タイヤ交換するとき)
 - 6-14 ページ (タイヤチェーンを装着するとき)

フェンダー裏側に付着した雪を取り除く

雪道を走行すると、フェンダーの裏側に雪が付着してタイヤと接触し、ハンドルの切れが悪くなることがあります。

- ときどき車を止めてフェンダーの裏側を点検してください。雪の塊が付着しているときは、周囲の部品を傷つけないように雪を取り除いてください。



80J313

駐車するとき

パーキングブレーキ

パーキングブレーキが凍結すると解除できなくなります。

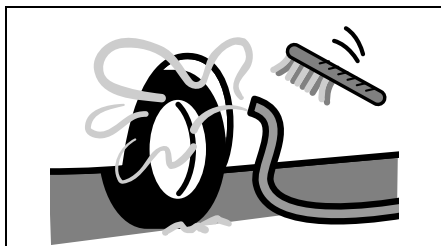
- 長時間駐車するときはパーキングブレーキをかけず、セレクトレバーを[P]に入れ、輪止め(市販品)をします。

凍結防止剤が散布してある道を走行したあとは

すみやかに凍結防止剤を洗い落としてください。とくに車体の下まわり、足まわりを念入りに洗ってください。放置するとサビの原因となります。

凍結を防ぐため、洗車後はドアまわりなどの水分をふき取ってください。

- ドアキーの穴を避けて洗車してください。キー穴が凍結すると、ドアが解錠できなくなります。
- ドアまわりのゴム部品の水分は、とくによくふき取ってください。凍結すると、ドアが開かなくなります。

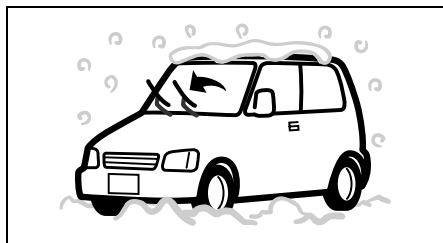


80J314

屋外に駐車するときは

注 記

- 軒下や樹木の下には駐車しないでください。積雪や落雪で車の屋根がへこむことがあります。
- 降雪時に長時間駐車するときは、アンテナを取り外してください。
→ 5-14ページ（アンテナの脱着）
- 駐車するときはワイパーアームを立ててください。雪の重みでワイパーアームが変形したり、ブレード部（ゴムの部分）がガラスに凍結したりすることがあります。



80J315

排気管のまわりが雪でおおわれたときは

⚠ 警告

排気管のまわりが雪でおおわれたままエンジンを回転させないでください。排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。



80J316

タイヤチェーンを装着するとき

タイヤチェーン

この車に適合した日産純正品を装着してください。適合するタイヤチェーンについては、日産販売会社にご相談ください。

⚠ 警告

- 適合品以外を装着しないでください。ブレーキ配管や車体を損傷するおそれがあります。
- 走行中にいつもと違う音がするときは、ただちに停車して点検してください。タイヤチェーンが切れたり、一部が外れたりして車体に当たると、ブレーキ配管や車体を損傷するおそれがあります。

⚠ 注意

- タイヤチェーンを装着して走行するときは、安全およびタイヤチェーン保護のためスピードを控えめ(30km/h以下)にし、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンプレーキなど「急」のつく運転をしたり、突起や穴を乗り越えたりしないでください。
- ABS やタイヤ空気圧警告システム(タイプ別装備)の場合、タイヤチェーンを装着すると正確なタイヤ回転速度が検出できなくなって、正常に作動しない場合があります。

注 記

タイヤチェーンを装着したまま、雪のない舗装路を走行しないでください。路面が損傷したり、タイヤチェーンの摩耗が早まったりします。また、4WD 車の場合、駆動装置に無理な力がかかり、故障の原因となります。

タイヤチェーンを装着する前に

■ タイヤチェーンは前輪に装着

この車は前輪が駆動輪、または前輪が駆動輪ベースの4WDです。後輪には装着しないでください。

■ ジャッキアップに適した安全な場所で装着

■ フルホイールカバー(タイプ別装備)を外してから装着

フルホイールカバーの傷つき防止のため、カバーを外してからタイヤチェーンを装着します。

タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンに付属の取扱説明書をよくお読みください。

注 記

アルミホイール装備車の場合、タイヤチェーンでホイールに傷がつくおそれがあります。